■交通案内

バス：タウンスニーカー 北コース「旧開智学校」下車徒歩1分

徒歩：JR松本駅から約25分

車　：長野道松本ICから約15分　P 20台

■利用案内

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

入 館 料：大人(高校生以上)—400[300]円
小人(小・中学生)—200[150]円
[　]内は団体料金(20名以上)

障がい者割引など
各種割引あり

休 館 日：3月から11月までの第3月曜日、12月から2月までの月曜日
(該当日が休日の場合はその翌日)
年末年始(12月29日～1月3日)

※貴重な文化財を守るための保存修理工事により、一部閉鎖や長期休館することがあります。ご理解とご協力をお願いいたします。

ご注意：校舎の見学は、一団体100人程度までご入場可能です。それ以上の人数となる場合、複数回に分かれてのご入場をお願いしております。
校舎内2階へは階段のみの移動となります。

国宝 旧開智学校校舎

〒390-0876 長野県松本市開智2丁目4番12号
TEL 0263-32-5725　FAX 0263-32-5729
URL http://www.matsu-haku.com
e-mail kyu-kaichi@city.matsumoto.lg.jp

国宝 旧開智學校校舎

旧開智学校校舎は、様々な資料を収蔵しています。収蔵資料数は 11 万点を超え、これらは教育資料と建築資料に大別できます。教育資料には各時代の教科書や教材、学校日誌、卒業証書などがあります。開智学校に関するあらゆる資料がそろっていることから日本一の教育実践資料と評価されています。建築資料には、国宝附指定資料 63 点をはじめ、舶来色ガラス、立石家文書などがあります。

1階特別展示室

明治初期の授業の様子
「東京小学教授双六」
(明治10年)より

扁額「愛・正・剛」　東久世道禧書
開智学校の校訓「親愛・公正・剛毅」を表しています。

校旗

開智学校押絵びな(複製)
羽織・袴に靴をはいた先生が西洋数学を教え、子どもたちは腰掛にすわっている開校当時の授業風景。

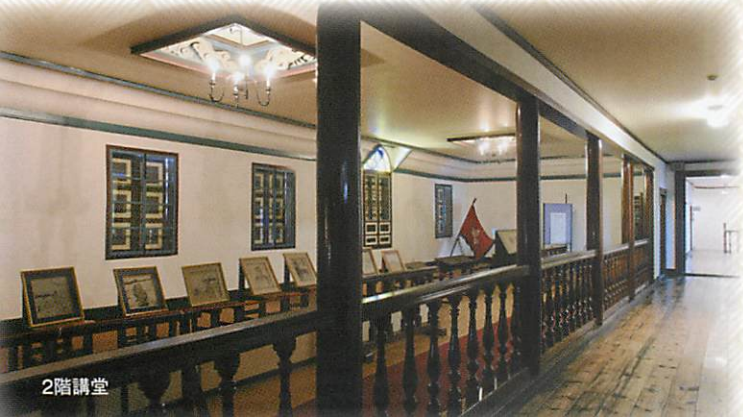
男子部部日誌
大正5年度の開智学校の日誌

開智学校児童の絵
明治32年

単語図　第二

小学国語読本　巻一　第4期国定教科書

子守教育の様子(昭和初期)



2階講堂

開智学校は初等教育を第一の使命としましたが、それにとどまらず中学校や幼稚園などの教育機関、さらに図書館や博物館をはじめとした社会教育施設にいたるまで、松本の様々な教育施設の発祥の母体となりました。

また、子守教育や能力別学級編成など、それぞれの子どもの事情に則した教育を幅広く展開しました。各時代の教員が、子どもたちと真摯に向かい合ってきた様子が資料から読み取れます。

立石清重

開智学校建築諸用控
立石清重の建築帳面、開智学校建築に関する記録

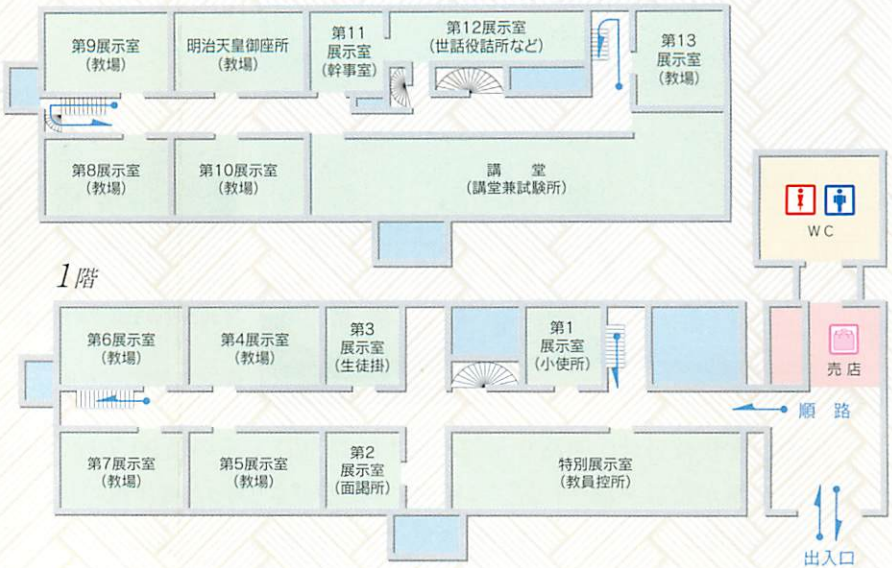
旧開智学校校舎の建築費は約1万1千円で、うち約7割は地元住民が出し合ったお金です。重い負担でしたが、新たな時代を作らんとする住民たちの熱意が擬洋風校舎を誕生させました。

その熱意を形に表したのが、地元松本出身の大工棟梁立石清重です。進取の気風に富んだ立石は、東京や横浜に出かけた際のスケッチなどをもとに試行錯誤を重ね、独創的な意匠をもつ完成度の高い校舎を造りあげました。その後も、県内外の大規模公共建築をはじめ、多くの建築を手がけました。近代前期の日本を代表する大工棟梁です。

色ガラス（縦25.7cm、最大幅31.0cm、最小幅15.0cm、外国製）

御鑑札控帳〈含・東京出府記〉
立石清重が開智学校新築に先立ち上京した際、建築の細部意匠などを描いたスケッチ。

校内ご案内　（　）内の部屋名は創建当初の用途名



旧開智学校校舎の概要	
指定区分	国宝
指定日	令和元年（2019）
建築年	明治9年（1876）
設計・施工	立石清重
現存建築面積	513.98㎡
構造	木造2階建・桟瓦葺・寄棟・土蔵造・白漆喰大壁造・八角塔屋附

旧開智学校校舎の魅力を紹介するボランティアガイドも活動中！事前予約制です。詳しくはホームページをご覧ください。

姉妹館提携を結んでいる擬洋風校舎

● 重要文化財開明学校
昭和62年10月6日提携
〒797-0015
愛媛県西予市宇和町卯之町3丁目110番地
TEL.0894-62-4292

● 国指定重要文化財岩科学校
平成17年11月5日提携
〒410-3613
静岡県賀茂郡松崎町岩科北側442
TEL.0558-42-2675

詳細は各館のホームページをご覧ください。

土地自慢でハござらぬが建築の出来ハ目今日本第一等の小学校と申しても新聞屋の過賞では決してござりますまい　明治9年4月21日付『信飛新聞』第136号より

創建当初の旧開智学校校舎

女鳥羽川沿いの校舎（昭和30年代）

現在の旧開智学校校舎

旧開智学校校舎は、明治９年（1876）４月に完成し、その後90年近く使用された小学校の校舎です。地元松本の大工棟梁立石清重が設計・施工しました。和風と洋風が混ざりあった擬洋風の校舎は、東京の開成学校（東京大学の前身）や国立第一銀行をはじめとして、当時の擬洋風建築の特徴をよく取り込んでいます。東西南北の風見を配した八角塔がそびえ立ち、舶来のギヤマン（ガラス）が散りばめられた白亜の広大華麗な校舎の出現に、人々は新しい時代の幕開けを感じたことでしょう。

昭和36年（1961）３月23日に重要文化財に指定されていた校舎は、同38年１月から翌年８月にかけて、市街地を流れる女鳥羽川のほとりから現在地に移築され、新築当時の形に近づけて復元されました。昭和40年４月から校舎の公開と教育資料を展示する博物館として開館しました。

令和元年（2019）、近代学校建築としては初めて国宝に指定されることとなりました。開化期の洋風建築受容の様子を示し、近代教育の黎明期を象徴する校舎として、深い文化史的意義を有すると評価された校舎は、激動の時代に立ち向かった当時の人々の気概と新時代への希望を今に伝えています。

開智学校は、江戸時代の松本藩校崇教館の流れを引き継ぎ、明治５年（1872）５月に開校した筑摩県学を母体としています。同年９月の学制発布を受けて、翌６年５月に開智学校となりました。当時、松本は筑摩県に属していましたが、教育を立県の指針とした筑摩県権令（現在の知事）永山盛輝の学事振興政策により、就学率が全国1位となるほど県民の教育への理解が進んだ土地でした。開智学校は、そんな筑摩県の一番の中心校として整備されました。

開校当初の校舎は、廃仏毀釈で廃寺となった全久院の建物を利用しました。全久院は旧松本藩主戸田家の菩提寺でした。校内には丸太柱や桟唐戸など、周辺寺院から転用された部材が残っています。

筑摩県権令　永山盛輝
薩摩藩出身。松本の近代教育の礎を築いた人物。

桟唐戸
浄林寺から転用された扉。当時の職人の優れた技術が垣間みえる。